

Topics1. わな捕獲技術向上講習会(初級編・応用編)を実施しました。

Topics2. 鳥獣センターに”新しい仲間”が加わりました。名前募集中!

2023

10

Vo.45

# 鳥獣センター通信

発行元 鳥獣被害対策支援センター ☎0985-44-1816

## Topics1

二ホンジカやイノシシなどの野生鳥獣による農林被害が依然として深刻な状況にある中、鳥獣の捕獲を担う狩猟者のうち、本県のわな猟免許取得者は増加傾向にあります。しかし、



わな猟免許は取得したけど、どうやって設置すればいいんだろう？



周りに聞ける人がいない... 困った。

そのような声にお応えして、県では毎年、**わなによる効果的な捕獲技法の習得**を目的とした講習会を開催しております。(自然環境課が主催)今回は、10月に実施した講習会について、ご紹介します。



講師は、宮崎県猟友会綾支部長 兼 農作物野生鳥獣対策アドバイザーの小西俊一様にお願ひしました。

### (1日目) 初級編

まず、鳥獣保護管理法やくくりわなの設置方法について、動画や道具を見ながら学びました。

その後、2人1組でくくりわなを設置しましたが、初めて触る方が多く、苦勞していました。しかし、徐々に慣れていき、最後には皆さん、無事に設置できました。



座学



くくり罠設置の練習

### (2日目) 応用編

2日目は、より実践的な内容として、『小林式誘引捕獲』について学びました。これは、シカが餌を食べる際に、口元へ前足を置く修正を利用し、開発された捕獲方法です。(詳細は林野庁のホームページを御参照ください。)

座学のあと、実際に獣が出る森へ移動し、『小林式誘引捕獲』によるわな設置や、箱わな、止めさしに必要な保定方法について学びました。前日も参加された方が多く、スムーズに設置までできました。

参加者からは、『実際の猟場にわなを仕掛けることで、勉強になった』『止めさしについて知ることができて良かった』などの声をいただきました。

### ★最後に★

今回講師を引き受けていただいた小西様、花岡主宰に、改めてお礼申し上げます。有害鳥獣による農林業被害を抑えるには、高齡化も進んでおり、技術継承のためにも、

この講習会は継続していきます。



小西俊一氏  
『若手猟師の育成に、特に力を入れています。』



わなを落ち葉で隠して餌をおき完成



わなの周りに石を置き...



猟場でのくくりわな設置



箱わな (タヌキがかかっていました。)



ハンティング模擬体験

本研修は「わな猟」が対象ですが、銃猟にも興味を持ってもらうため「ハンティングシューミレーター」を借り、実践しました！(シューティングゲームのように見えますが、とてもリアル！)2日目の参加者にやってももらいましたが、「面白い！次は銃猟をする！」とおっしゃる方も

### 余談

## Topics2

イノシシのぬいぐるみがセンターの仲間に加わりました!

研修の際、あつたら何かと便利な動物のぬいぐるみ。例えば、『電気柵に触れ感電する部位はここ!』『止めさしはここにナイフを入れる』など。研修等で使用したい方は、鳥獣センターまで御連絡ください。大きさは、うり坊サイズです。(なお、私物につき、取扱いは注意をお願いします。)

### 担当者の一言

先日、『新人ハンター育成射撃大会』に参加してきました。(初参加!)

まず、安全講習を受講し、その後、クレー射撃を行います。

1人50発撃ち、当たった枚数で優勝、準優勝を決めるそうので、しかも景品ありとのこと。

俄然やる気が出て頑張りましたが、これがまた難しい。

結局23発は当たりましたが(自分なりに上出来)、優勝者、準優勝者はなんと40発以上!



クレー射撃の様子



GoProを装着し動画撮影 (見たい方はお声がけください。)

表彰式の際に尊敬の眼差しを送っていたところ、最後に呼び出されたのは私の名前。

どうやら『マナー賞』らしく、いい思い出になりました。

(妻からは『ブービー賞?』と言われる始末。違はず。)



名前を募集中!



# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 東臼杵北部地域

「子実用トウモロコシ試験栽培における獣害防止対策」

近年の国際情勢等に伴い、子実用トウモロコシなど飼料の国内生産への関心が高まっており、当地区では水稲代替品目として昨年から一戸で試験栽培が行われています。

ほ場周辺ではシカやイノシシ、アナグマの目撃・加害事例があり、栽培技術とともに鳥獣被害対策が必須であることから、特命チームで対策に取り組んでいます。

昨年度は、栽培前半のシカやイノシシ対策として電気柵を設置し、子実がついた頃に後付けでアナグマによる子実食害防止対策として「かたまったくん」を外周に追加設置しました。

子実の成熟前までは被害はありませんでしたが、終盤に裾部からアナグマが侵入し、食害を防ぐことができませんでした。

今年度は、雨が多かった影響で電気柵の設置が遅れたため、シカ、イノシシ、アナグマ対策を同時期に行いました。

最下段に「かたまったくん」を設置し、裾部はT字ピンで固定しました。そしてその上段に「かたまったくん」の通電部から、20cm、20cm、30cmの間隔で

3段の柵線を配置しました。

結果として、シカ・イノシシの食害やアナグマの侵入もなく、被害を防止できました。また今回、二つの柵を同時に設置することで設置の省力化のメリットも見い出せました。

しかし、収穫前の雑草の繁茂対策や裾部の固定方法に不安が残っており、ほ場管理について生産者と検討を続ける必要があります。

※「かたまったくん」は、電気柵とネット柵を組み合わせたもので、設置が簡便で中型獣全般に対応した侵入防止柵です。



①設置初期の柵の状況。  
最下段に「かたまったくん」



②栽培終盤の柵の状況。  
繁茂する雑草の抑制対策が必要

## 西諸県地域

8月31日(木)に高原町役場で鳥獣被害対策キャラバン(京農政企画課中山間農業振興室主催)が開催され、その中で、重点現地支援地区について、検討を行いました。

西諸県地域では、小林市須木内山地区を重点現地支援の対象としています。同地区は、人・農地プランの検討の過程で鳥獣被害対策を同時に検討していた地区で、令和5年度から令和7年度までの3か年で、鳥獣被害防止総合対策交付金関係事業を活用してワイヤーメッシュ柵を整備することを計画しています。

これまで、同地区に対して、現地ほ場周辺の環境の確認や、鳥獣被害防止柵の設置ルートの確認、生産者を対象とした適切な鳥獣被害防止対策についての研修等の支援を行ってきました。今回の検討では、現地のほ場周辺の環境が改善されたかどうかの確認や、適切な鳥獣被害対策のための課題と役割分担の整理を行いました。

検討の結果、地区の担い手が少数であることから、柵を維持するための継続的な集落の話合いが必要であることや、農地周辺の刈り払いを集落単位で行うため、中山間地域等直接支払制度の活用が必要である等の課題が見つかりました。

これから、侵入防止柵の設置の前に、適正な柵の設置方法と効果的な鳥獣被害防止対策の方法について再度説明を行うこととしていきます。

同地区が鳥獣被害防止対策のモデルとなるよう、引き続き支援していきます。



①課題及び役割分担の検討



②ほ場周辺環境及び設置ルートの確認